

[戻る](#)

188号 / 2005年11月

連 合 神 奈 川
発行責任者: 小西 正典

連合神奈川 第17回年次大会

活動計画を決定 大増税ストップ

連合神奈川は11月11日、ワークピア横浜で第17回年次大会を開催。定期大会の中間年に当たる年次大会では、今回から活動方針に変わり、前年の定期大会で決定した活動方針に基づく「2006年活動計画案」を提起、これを決定した。役員、代議員、来賓ら役280名が参加。大会は「**組合が変わる、社会を変える～つくりろ格差のない社会、職場・地域から～**」をスローガンに掲げ、小菅代議員(JAM神奈川)、稲葉代議員(JEC連合神奈川)両氏を議長に進められた。

主催者代表として連合神奈川白石会長があいさつ。来賓として連合本部逢見副事務局長、神奈川県尾高副知事、横浜市中田市長、川崎市東山副市長、民主党県連田中前代表、社民党県連福島代表、公明党県本部上田代表、連合神奈川議員団会議東野会長、労働福祉団体を代表して真壁県労協協会長からそれぞれあいさつを受けた。また、民主党県連の新代表となった浅尾慶一郎氏も遅れてかけつけ、あいさつをした。

続いて議事に移り、2005年度活動報告をスライドで上映。決算・会計監査報告が満場の拍手で承認された。第1号議案『2006年度活動計画』、第2号議案『予算』、第3号議案『役員選出(補充)』、第4号議案『米陸軍第一軍団司令部等のキャンプ座間への移転等に反対する決議』、第5号議案『大会スローガン』、第6号議案『大会宣言』がそれぞれ提案され、挙手で決定された。役員補充はJEC連合内海春雄副会長から松平徹副会長に引き継ぎ。組織拡大功労表彰が行われ、代表としてJAM神奈川齊藤委員長が表彰状を受け取った。大会の締めくくりは白石会長の音頭で、参加者一丸となつてのガンバロー三唱。力強く拳を振り上げ結束を誓った。

白石会長あいさつ(要旨)

「今年は川崎市長選挙などで、生活の場、働く場、住みよい町づくりなどに大きく貢献できた。来年も政策制度実現の観点から責任ある対応をしていきたい。先の解散総選挙は、結果は惨敗だったが、推薦候補18名中10名が前回票を上回り、総得票では4万票を上積みした。皆さんの懸命なご努力と組合員をはじめ、ご家族、ご友人の皆さんのご支援に感謝申し上げます。参議院補選でも逆風の中76万票を確保できた。選挙を通じ、自民党は民主党への攻撃として、その最大支援組織である労働組合＝連合との分断、連合の中の官公労と民間との分断を画策。既得権擁護の労働組合、改革に反抗する官公労と、マスコミを通じて批判した。

連合は自民党に批判されるような労働組合ではない。私たちは崇高な労働運動の理念を持つ、まじめな勤労者の集団である。官公労を批判する前に、国として公務員に労働基本権を与えることから始めなければならない。順序が違う。労働三権を与え、公務員のモチベーションを高め、労すれば報われるシステムをつくる。それが公務員制度改革だ」平和運動について「米陸軍第一司令部のキャンプ座間移転..米海軍の横須賀への原子力空母配備は絶対に許すわけにはいかない」サラリーマン大増税阻止について「定率減税の廃止。退職金課税。特定扶養控除の廃止。配偶者控除の廃止など、勤労者世帯を中心とした大規模な増税に、連合神奈川は各地で反対キャンペーンを行っている。国は国民に負担を強いる前に、景気回復による税収増、国会議員の定員削減をはじめ、納税者が納得できる歳出構造改革を行うよう、強く要望する」

国際交流について「中国・寧省総工会、韓国労総京畿道地域本部と連合神奈川による三国三団体会議の第一回会議を、日本で開催した。会議は、互いの組織課題、国の課題などを報告し合い、意見交換を行った。率直な意見交換ができたことは、一歩前進と評価している。私たちは、互いに顔を合わせ、肉声を聞き、話し合う中に、隣国に思いをはせた民際外交の意義があったと感じている。先人の築いた交流の輪を、絆を引き継ぎ、より強く発展していきたい」

質疑応答

2006年度活動計画案について「横浜市は勤労福祉部を縮小し、労働情報センターの廃止と労働相談業務の勤労福祉財団への委託を行う。また、勤労市民室そのものも、市民局から経済局へ移される。中田市政の労働行政に対する後ろ向きの姿勢を危惧する。横浜市技能文化会館が、指定管理者制度により一般企業による指定管理の優先交渉権が決めることになる。勤労者の文化・交流活動、技能職振興などを目的とした施設を、貸し会議室という業務にしてしまつて良いのか。勤労者福祉財団職員も来年4月以降の雇用が確定しない状況に置かれている。来年は横浜市長選があるが、この状況では私たち自治労横浜は中田市長を後押しすることができない」

応答

機構改革の問題は、労働行政をどう進めていくのかという課題である。私たちとしても市の話聞き、私たちなりの考え方を述べていきたい。指定管理者の問題は、そのことによって市民サービスや、利便性が低下したりということがあってはならない。経済的効率だけでなく、雇用問題も発生させないなど、総合的な要素の中で選定がはかられるべきだと考える。雇用問題が起きるとすれば、私たちもしっかりと対応していきたい。横浜市長選について市役所に働く職員にとってどうなのかという観点も大事だが、市民にとってどうなのか、そうした観点からの検討が必要だ。今後、議論を進めていきたい。

大増税反対 平和問題など訴え 雇用の安定・創出、大増税阻止、社会保障制度の抜本改革、民主的な公務員制度改革の実現にむけた

連合神奈川秋季総決起集会

連合神奈川は11月7日、横浜公園で『雇用の安定・創出、増税阻止、社会保障制度の抜本改革、民主的な公務員制度改革の実現にむけた総決起集会』を開催。3,100名が参加した。集会は連合神奈川白石会長の主催者あいさつで幕を開け、民間労組から運輸労連望月書記長、公務労組から神教組林執行委員がそれぞれ代表して決意表明を行った。集会宣言の採決のあと、スローガンを掲げた横断幕を前に、横浜市庁舎前、関内駅など目抜き通りをデモ行進した。

三国会議を初開催

中国・寧省総工会・韓国労総京畿道地域本部代表団と国際交流活動、さらに大きな輪へ広がる

連合神奈川は1992年から中国・寧省総工会と、1993年から韓国労総京畿道地域本部とそれぞれ国際交流を行ってきた。地道な民際交流は着実に発展し、今回、3国間で初の三団体会議を行った。両国代表団は10月31日から11月6日の日程で来訪。県、横浜・川崎両市への表敬訪問などの他、国際交流センター、三菱重工金沢工場などを見学、交流を行った。三団体会議は11月2日、川崎市のマリエンで開催。組織課題から国家レベルの問題まで、率直な意見交換が行われた。また、三団体会議は以後3年ごとに開催すること、次回は寧省総工会がホスト団体となり、中国で開催されることなどが決められた。代表団は、寧省総工会から劉野(リョウ イ)寧省総工会副主席以下5名、京畿道地域本部からは全汪..(ジョン ワングピョ)京畿道本部副議長以下4名。

第4回 教育を語る県民の集い

児童相談の現場から児童虐待を考える

連合神奈川は10月28日、ワークピア横浜で、『第4回教育を語る県民の集い』を開催。153名が参加した。集いは連合神奈川柏木副事務局長の司会で開会。主催者を代表し、斎藤副会長(教育平和政策委員長)が、児童虐待の増加を懸念する旨のあいさつを行った。続いて梨本哲氏(横浜中央児童相談所課長補佐・指導係長)を講師に「児童相談の現場から」と題し講演を受けた。

女性委員会学習会男女平等社会を考える

連合神奈川女性委員会は11月8日、ヴェルク横須賀で『知ってる？男女平等社会』と題し学習会を開催。31名が参加した。学習会は神奈川県男女共同参画審議会委員の浅見美和子さんを講師に迎え開催された。講演は参加者自ら議論し、考え、結論を導き出すもの。クイズ形式。で知識を深め、現在の自分たちの職場での問題点を抽出。それに対しどんな対策を持てばよいのかを、自分たちで考えた。参加者は男女が半々で、この問題への関心の高さをうかがわせた。

増税反対！

今月の連合の日

11月2日、桜木町駅頭で実施。連合神奈川は構成組織や横浜地域連合とともに「サラリーマン増税」断固反対を訴え、道行く人々にアピール。啓発チラシとティッシュを配った。

「災害ボランティアリーダー養成講座」 第1期講座を開講

連合神奈川、県労福協などで構成する神奈川ボランティアネットワーク(通称:Vネット)は10月22日から「災害ボランティアリーダー養成講座」第1期講座を開講。21名の受講生が参加した。今回は初年度ということで基礎講座のみの開講だが、次回からは上級講座も設ける。

連合神奈川は社会的責任において個人情報保護につとめます写真、映像、音声などの削除・利用停止依頼については連合神奈川のホームページの「プライバシーポリシー」をご参照ください